

十和田湖1000年会議 令和6年度 第1回 本会議

今年度の取り組み・ 各ワーキングでの議論の経過

令和6年10月8日
環境省 東北地方環境事務所 十和田八幡平国立公園管理事務所

①昨年度の振り返りと今年度の事業内容

国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業について

先端モデル事業の目的

インバウンド再開を踏まえ、国立公園満喫プロジェクトの更なる展開として、
民間活用による国立公園**利用拠点の面的な魅力向上**に取り組み、
美しい自然の中での感動体験を柱とした**滞在型・高付加価値観光の推進**を図る。

国立公園の利用の高付加価値化とは？

- ✓ 単に富裕層を対象として高額で**豪華な宿泊施設やサービスを提供することではない**
- ✓ 国立公園の魅力的な自然環境を基盤とし、地域の歴史・文化・生活を踏まえた、**本物の価値に基づく感動や学びの体験**を提供し、利用者に自己の内面の変化を起こす。
- ✓ 関係者が、持続可能で責任ある観光の姿勢を共有し、保護と利用の好循環を目指す。

令和6年3月 十和田湖地域「基本構想」の策定

✓ 議論する場の設置

1000年会議

首長・関係機関上層部

幹事会

1000年会議出席機関
担当者

地域ワーキンググループ（3地区）

休屋・大川岱・宇樽部地域のコアメンバー

令和5年度 十和田湖1000年会議地域WG

第1回

「希望と不安を分かち合い将来を描こう」

第2回

「目指すべき姿の実現に向けたアクションプランをつくろう」

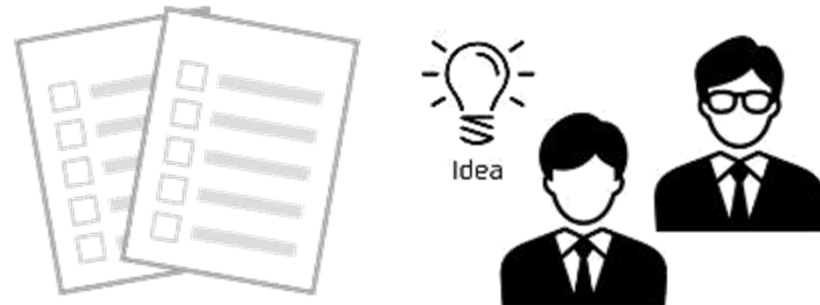
第3回

「十和田湖版インタープリテーションを考えよう」

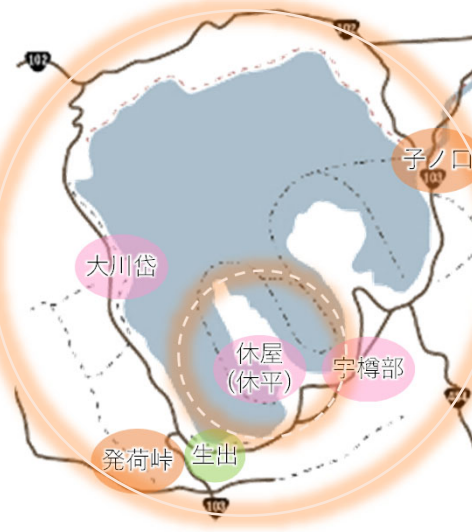
第4回

「推進組織が担うべき機能を考えよう」

✓ 民間事業の参入に向けた課題整理



✓ 「十和田湖地域」の基本構想の策定

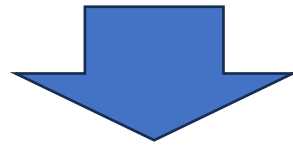


休屋での議論を
大川岱・宇樽部を含めた
十和田湖全体での
議論に拡充

令和6年3月 先端モデル事業「利用拠点」の選定

先端モデル事業
＝全国で4公園

- ✓ 十和田八幡平国立公園（十和田湖地域）
- ✓ 中部山岳国立公園（南部地域）
- ✓ 大山隠岐国立公園（大山蒜山地域）
- ✓ やんばる国立公園

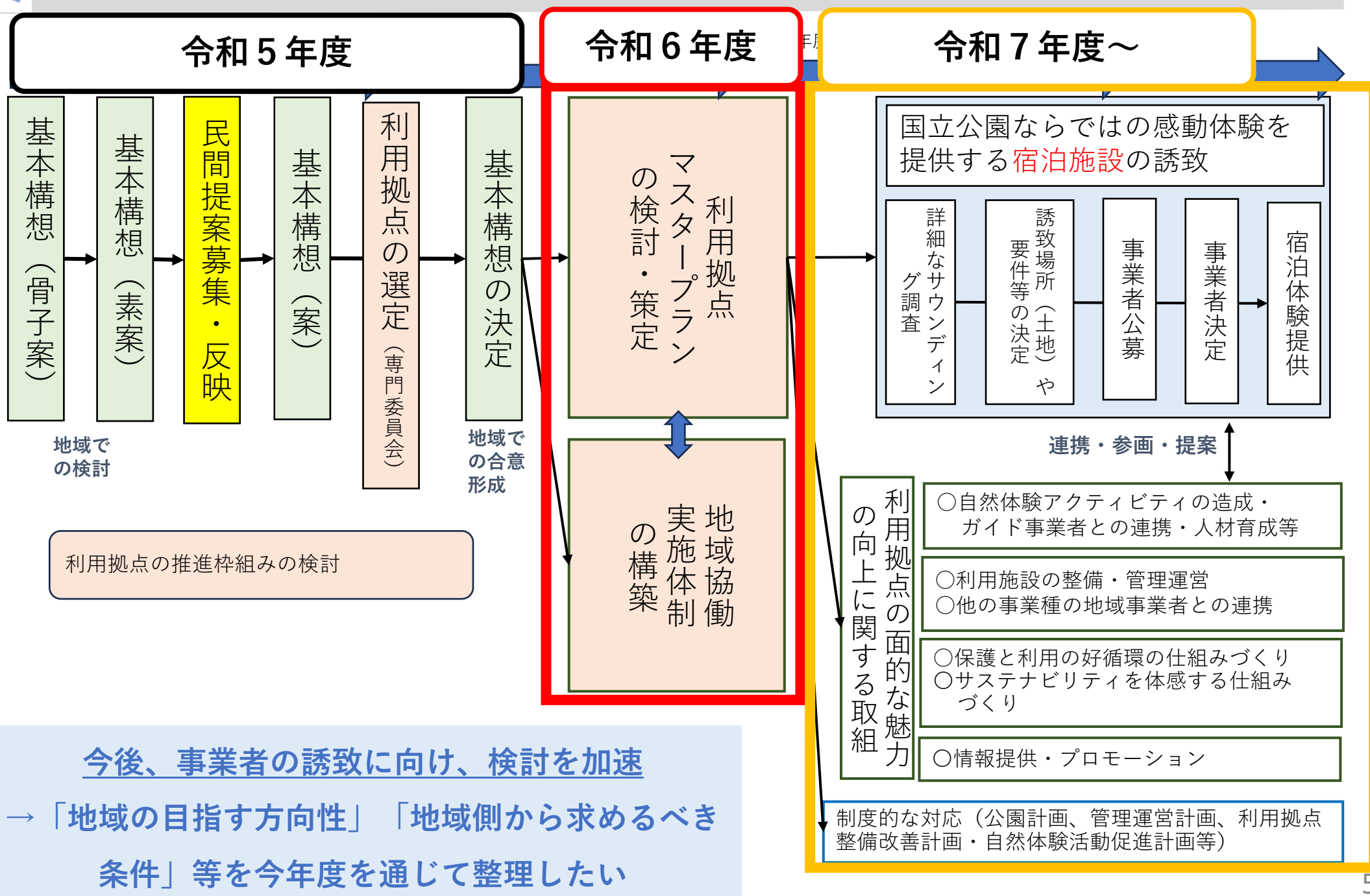


十和田湖地域のみ
次のステップへ



令和6年3月 十和田湖地域「基本構想」策定
⇒環境省有識者会議にて先端モデル事業の
利用拠点全国第1号を休屋・休平地区に選定

先端モデル事業の進め方



先端モデル事業の進め方（全国展開の方針）

第24回観光立国推進閣僚会議（令和6年7月19日開催）

●内閣総理大臣発言

「第三に、ネイチャー・ツーリズムの視点から、全国35カ所の全ての国立公園において、**先端モデル事業を踏まえ**、国立公園制度100年を迎える2031年までに、**地域の理解と環境保全を前提に**、世界水準のナショナルパーク化を実現すべく、**民間活用による魅力向上事業を実施してください。**」

今後の展開の方向性（※環境省HPより抜粋）

●環境省では、**地域の理解と環境保全を前提に**、公園ごとの特性や事情を踏まえ、**高級リゾートホテルに限定せず、宿泊施設の誘致を含む滞在拠点の上質化**を行い、民間活用による魅力向上事業を進めていきます。

●**まずは先端モデル事業の成果を取りまとめ**知見を整理した上で、地域の方々と丁寧に検討を進め、民間活用による魅力向上に取り組んでいく予定です。

利用拠点（休屋・休平地区）のマスタープランとは

利用拠点「マスタープラン」

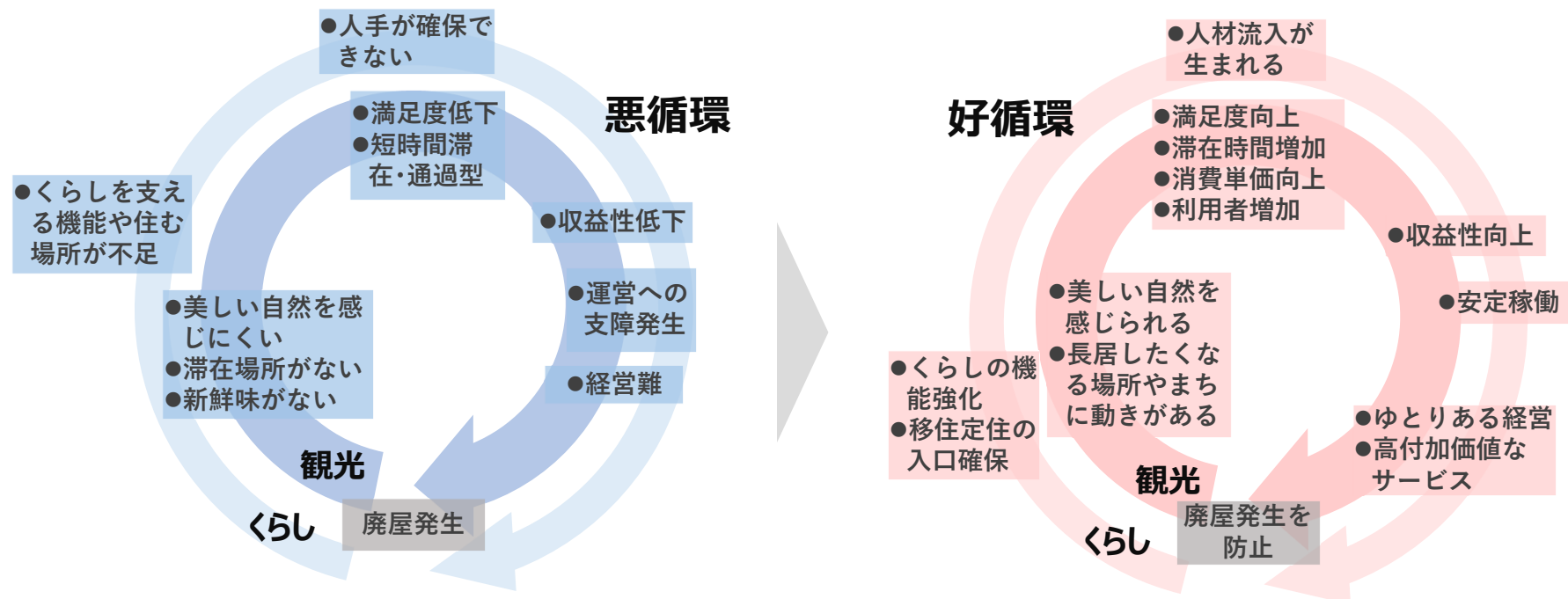
✓ 利用拠点（休屋・休平地区）において面的な魅力向上に取り組むための、
土地利用方針、施設の整備運営、情報・サービス提供に関する基本計画

✓ マスタープランの目的（＝先端モデル事業の目的）

利用拠点において**面的な魅力向上**に取り組む→**滞在型・高付加価値観光**を推進

※高付加価値：国立公園ならではの価値に基づく感動や学びの体験を提供すること

→基本構想・マスタープランの推進により、廃屋を生んできた負のスパイラルから脱却し、好転させる



利用拠点（休屋・休平地区）のマスタープランとは

マスタープランの検討方針

- 「基本構想」及び過年度に地域で議論された内容を活用。
（例）廃屋跡地の活用や地域デザイン等の考え方は過去に議論されている。
 - 十和田湖畔地域づくり懇談会
 - 施設整備や廃屋跡地活用に関する勉強会・意見交換会 など
- 重要事項はワーキンググループで意見をいただいて検討する。
- 民間事業者から、新規参入促進へ向けた意見をいただいて検討する。
- マスタープランの協議及び策定は、十和田湖1000年会議で行う。
（令和6年度中の策定を目指す）

マスタープラン協議の場：十和田湖1000年会議

十和田湖1000年会議

- 令和6年度は利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの協議・策定が主要な議題

幹事会

- 1000年会議の協議事項の検討・連絡調整

ワーキンググループ

- 個別の協議事項について設置

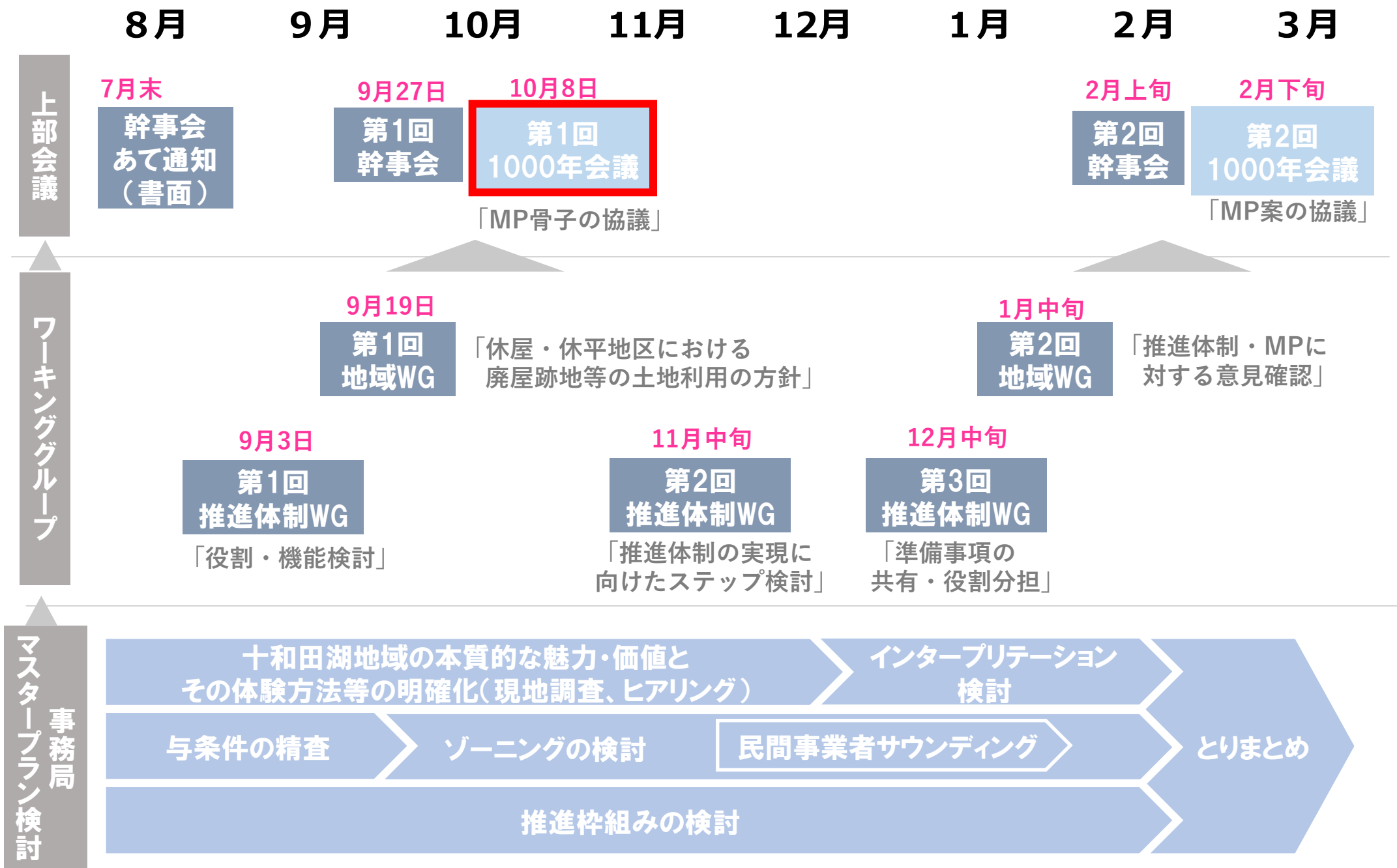
①地域ワーキンググループ

令和6年度は、利用拠点（休屋・休平地区）マスタープランの重要事項について、地域関係者からご意見をいただくことを主な目的として開催

②推進体制ワーキンググループ（令和6年度から新設）

基本構想やマスタープランを推進する体制等について議論するために開催

令和6年度の会議・検討スケジュール（予定）



※各会議の時期や議題は変更する場合があります。また、推進体制WGは設置要綱第7条に基づき今年度新たに設置するものです。

推進体制ワーキンググループでの議論報告

議題

推進体制が担う役割・機能の検討

十和田湖1000年会議 推進体制WGで目指すこと

基本構想6（1）推進体制 ※抜粋

② 新たな推進組織

自然・景観・文化や暮らし、なりわいの持続性の確保にあたって、既存の主体ではフォローしきれていない取組の必要性が明らかになっています。それらを推進・支援する新しい推進組織が望まれます。推進組織は既存の取り組みや主体のつなぎ役となることも期待されます。

- 地域で不足している取組を具体的に明らかにし、それらを担う推進組織（地域づくり会社等）の創設を検討します。



「十和田湖1000年会議**推進体制ワーキンググループ**」を新設

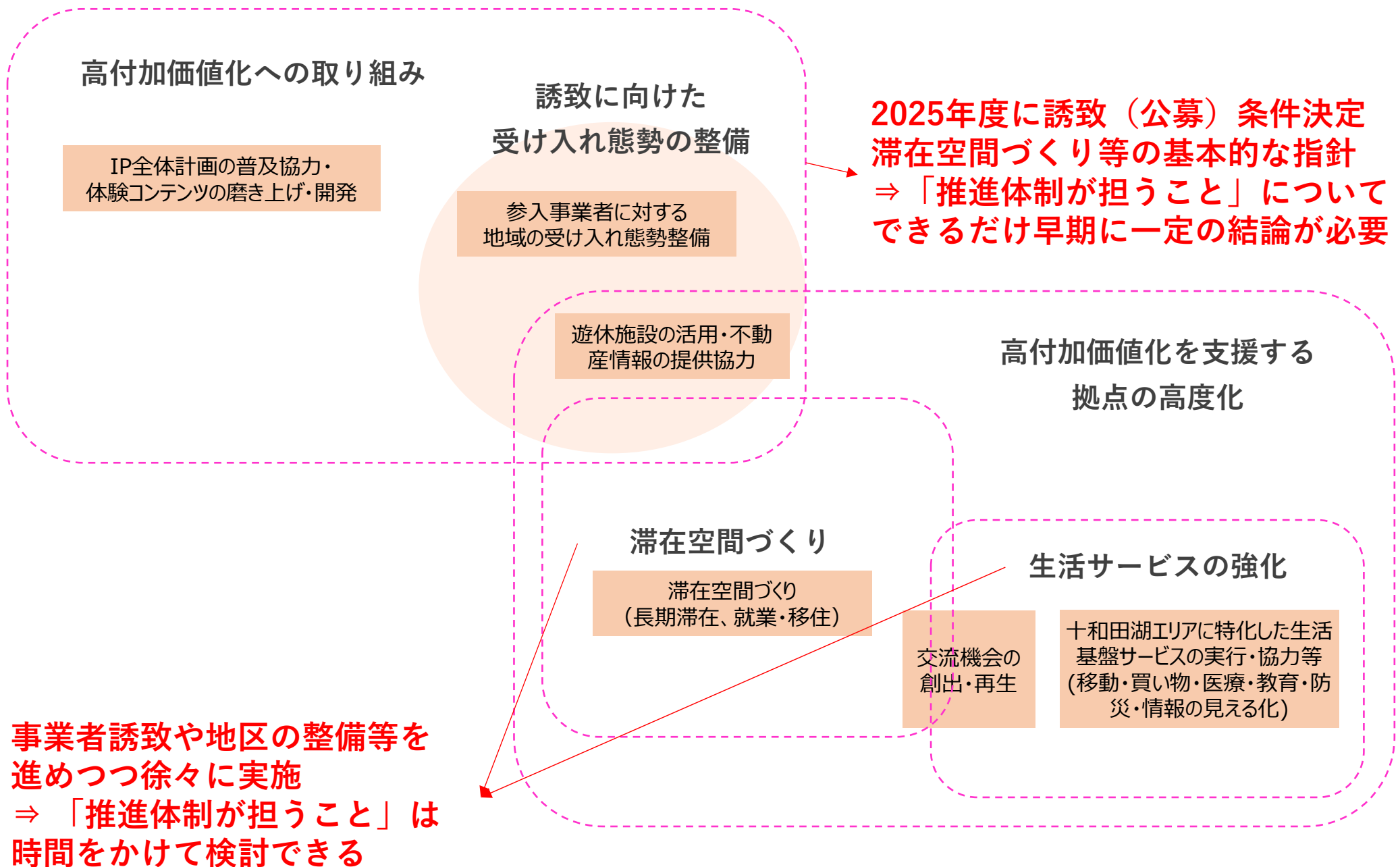
【構成員】

- ・（一社）十和田湖国立公園協会
- ・（一社）自然公園財団十和田支部
- ・（一社）十和田奥入瀬観光機構
- ・（一社）秋田犬ツーリズム
- ・十和田商工会議所 青年部
- ・青森銀行 ビジネスパートナー部
- ＋事務局：環境省

※1000年会議構成員のうち、昨年度に先行して御意見いただいた関係機関を中心に構成。

※今後、推進体制が担うべき役割・機能に応じて、WG構成員は柔軟に見直す予定。

基本構想における「地域に求められること」の体系と優先度(案)



第1回 推進体制WGの議題

議題：推進体制が担う役割・機能の検討

(論点①)

「地域で不足している取組」とは具体的に何か

(論点②)

「地域で不足している取組」のうち、新たな推進体制が担うべき取組は何か

意見の内容

参加者意見	推進体制の役割・機能の方向性
・ 移住の相談先がない状況 ・ 住みたい・貸したい等の相談をうけるが資格がなく、責任をもって仲介できない ・ 伝手がないと物件が借りられず、参入障壁が高い	移住定住や新規事業参画を推進する物件(住まい・店舗)の仲介・サポート →基本構想P.25（働く場と住まいの確保）に関連
・ 出店・起業のしやすさが確保されていない ・ チャレンジしやすい環境づくりが必要 ・ 休眠施設等の土地の有効活用ができていない	空き家等をまちづくり会社で譲渡を受け、貸し出す等の不動産事業 →基本構想P.20（土地や施設の有効活用）に関連
・ 事業安定のためには閑散期の利用を推進する付加価値を生む必要がある ・ 閑散期だからこそ行ける等、体験の限定化、ガイドのレベルに応じた単価向上	（高付加価値化に関する意見であり役割には言及なし）

くらしやなりわいに関する場所提供や仲介の
取り組みの必要性に対する意向を確認

地域ワーキンググループでの議論報告

議題

休屋・休平地区における
廃屋跡地等の土地利用の方針

今後の土地利用の考え方（廃屋跡地活用等から整理）

地域WG
資料抜粋

車・建物よりも歩行者・自然景観優先へ

これまでの地域での議論・意見	今後の土地利用の考え方（案）
のんびり、ゆったり、安全に、座り、休み、食べることのできる 滞留スペース・サービスの拡充	・歩行者が安全にゆったり滞留できるような園地等の整備を進めていく ・車両と歩行者の導線をできる限り分離させる
あるがままの自然を活かして、自然や景観に負荷のかからない規模で建物を考える	・新築や建替えの際には、湖や外輪山への眺望を阻害しないよう、建物の高さや面積等を適切に制限する
緑地や歩く人のための空間を確保した土地利用とする	・建物間に十分な空間を確保し、外輪山側や参道沿いを中心に緑地・樹林帯を増やしていく

今後の土地利用の考え方（伝えたい魅力から整理）

地域WG
資料抜粋

湖の美しさや信仰を実感できる空間へ

十和田湖地域の魅力	今後の土地利用の考え方（案）
湖畔まで近づいて初めて、湖の美しさが最大限に享受できることが感動体験	・ 来訪者を湖畔まで誘発・誘導するように演出された土地利用や導線配備 ・ ゆったりとした建物配置や植栽配置
穏やかな湖面と雄大な外輪山だけが広がるパノラマ	・ 湖畔の樹木を保全・活用し、湖面から人工物が見えないようにする
十和田信仰を通じて育まれる自然の恵みを慈しむ心	・ 歴史的な価値を持つ古道・結界を保全・活用できるような土地利用 ・ 自然を慈しむ場所であることを表現

基本構想
「地域の目指す姿」

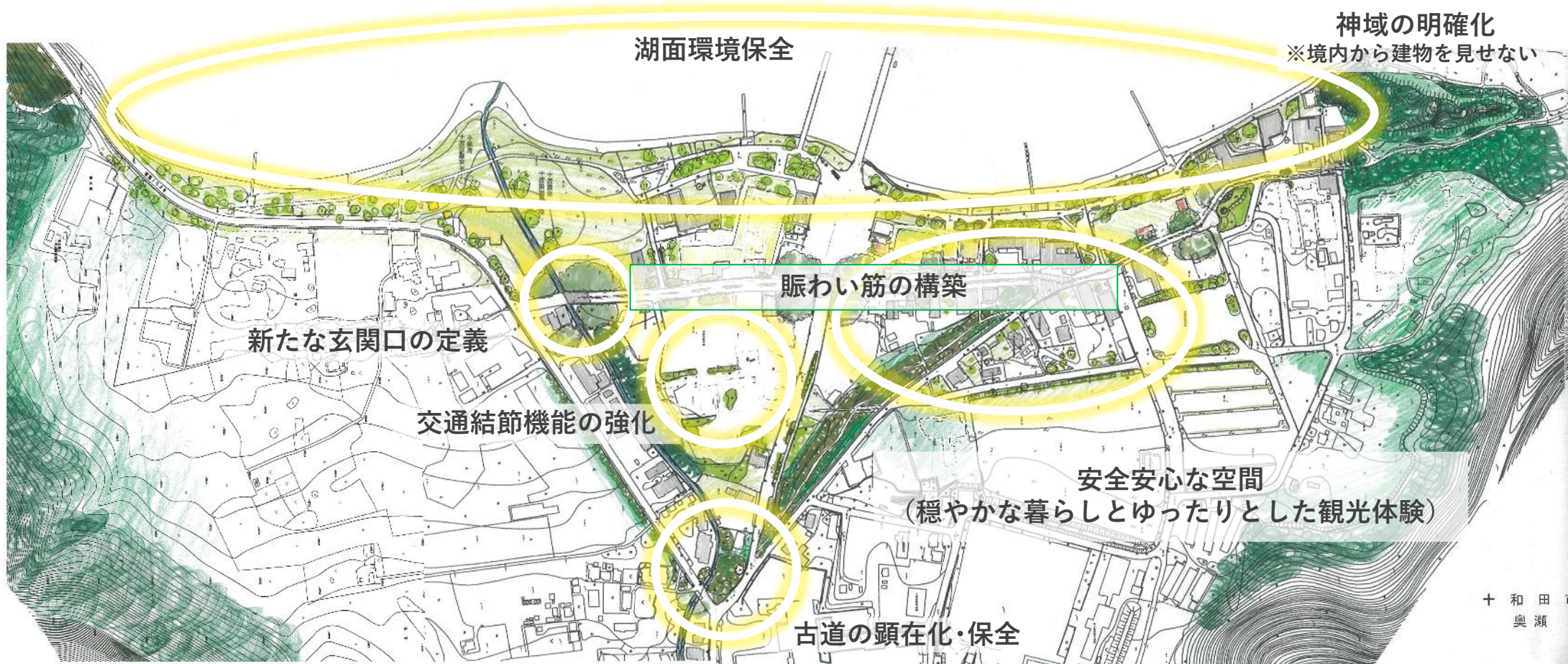
十和田湖 北奥をいくくしむ365日

休屋・休平地区の
土地利用方針（案）

穏やかな日常と十和田信仰の歴史を育んだ 自然がもてなす滞在の高付加価値化を目指す

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| （穏やかな日常） | ゆとりの敷地、移動速度の低下、水際と緑が手に取れる場所 |
| （十和田信仰の歴史） | 古道と結界の顕在化、十和田神社、信仰の玄関口 |
| （育んだ自然） | 四季の移ろい、地形と火山活動が織り成す透明度の高い水質と生態系 |
| （滞在の高付加価値化） | 水際の環境保全、厳しい制約条件、廃屋跡地の一部に宿泊施設等の誘致を検討 |

将来（概ね20年後）の土地利用図（案）【全体図】



将来土地利用図（案）【①南側エリア】

新たな玄関口（新結界）
県道とガソリンスタンド
の交差点に新たな玄関口
（新結界）を設置。神社
の杜の飛び地として参道
を演出

自然回復も視野に入れた土地利用を念頭
南側（休平の一角）は賑わい筋の玄関口
につながるゆったりとした現状の利用を
継続

交通結節機能の集約と拡充

交通の機能を南駐車場に集め、拡張。駅前
広場以北の交通量や速度を低減。北側駐車
場は徐々に縮小。周遊性の向上には小型モ
ビリティ等の活用も検討

古道や結界の保全と顕在化

南駐車場の交通結節機能の拡充・
新たな玄関口（新結界）の形成
に伴い、大型車両や一般車の流
入制限等（一方通行化）等を行
い、結界や古道の再生を検討

将来土地利用図（案）【②中央エリア】

湖畔林の保全

現在の湖畔林は、水辺の感動体験にいざなう緑のカーテン（スクリーン）として、陸側から水面の感動体験にいざない、湖面からの眺望も保全。一切の伐採は行わず、自然環境の保全を最優先とした土地利用とする

高付加価値体験を担う宿泊施設を誘致

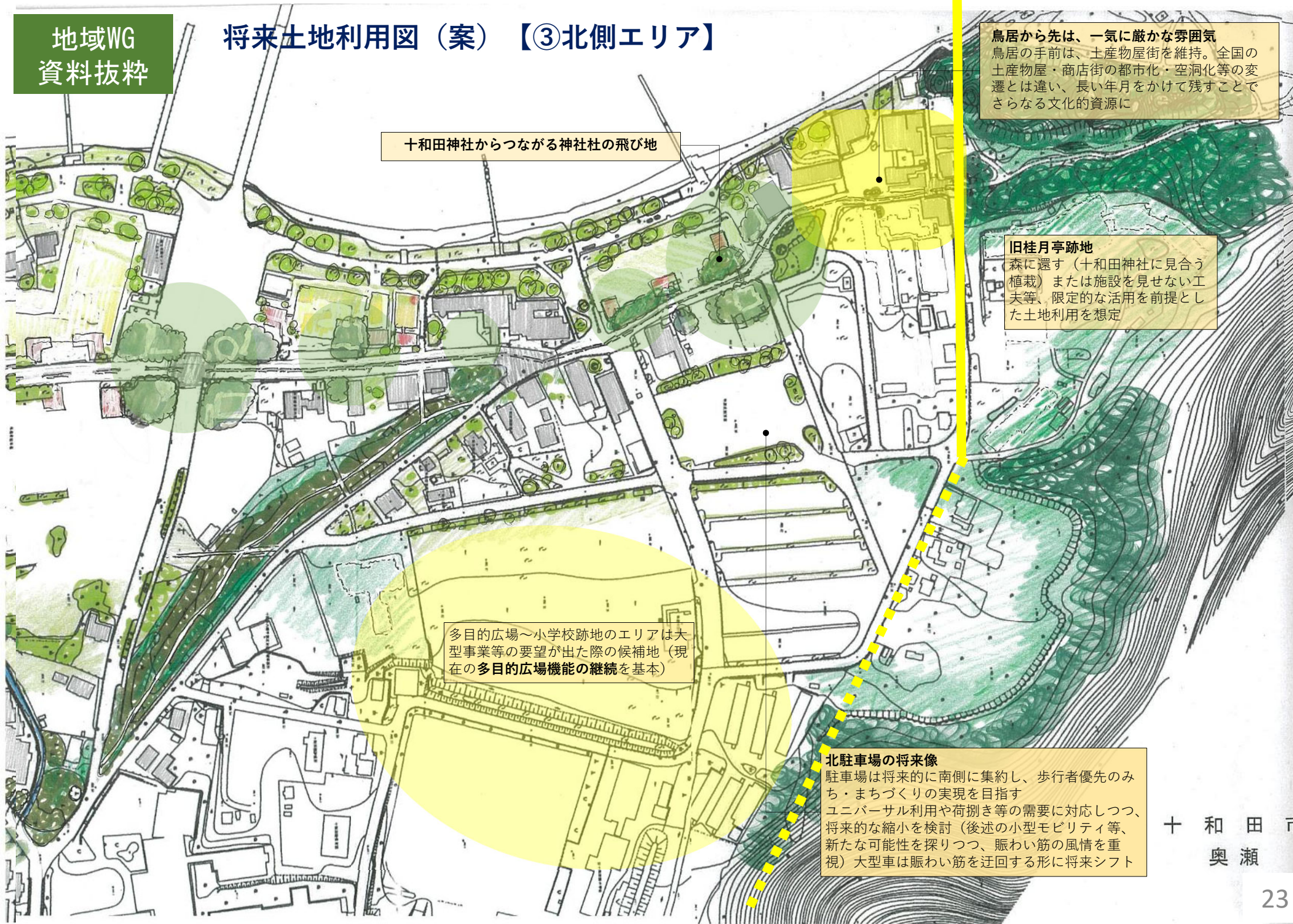
自然環境保護活動や環境保護費の納付等、厳しい制限を付与しながら、桜楽を含めて点在させる形で宿泊事業等の誘致を検討

歩行者中心のみちづくり

賑わい筋の景観

新たな歩行者動線となる中心軸には十和田神社から「杜の飛び地」となるような森を点在させ、賑わいと参道を演出。高付加価値宿泊施設は、この杜に沿う形に配置を誘導。古道の趣と変えることで、古道+結界は、歴史的価値の保全を最優先するよう現在の形を未来につなげ、別のものと認識できるような景観を形成

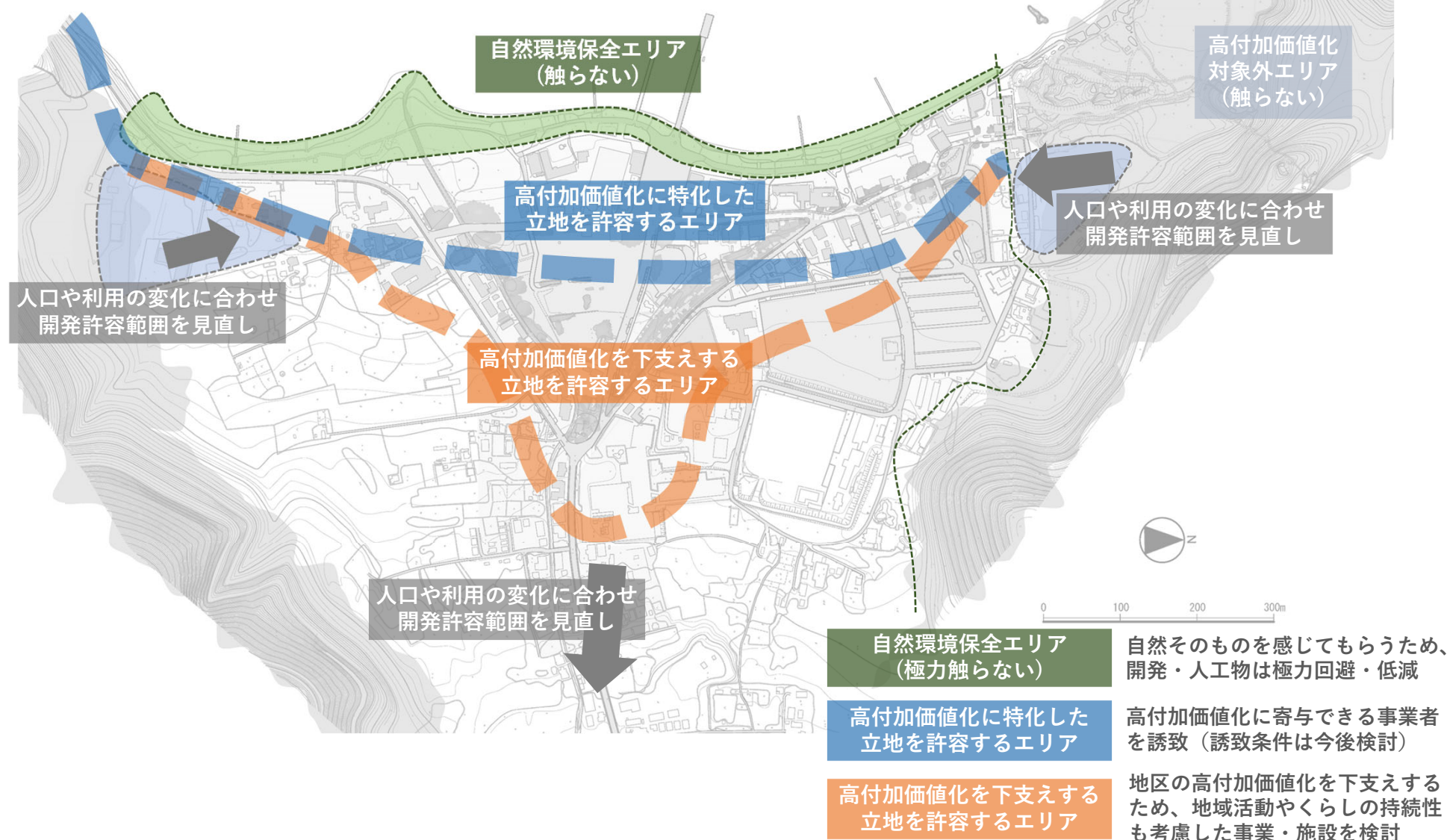
将来土地利用図（案）【③北側エリア】



将来的なエリア区分

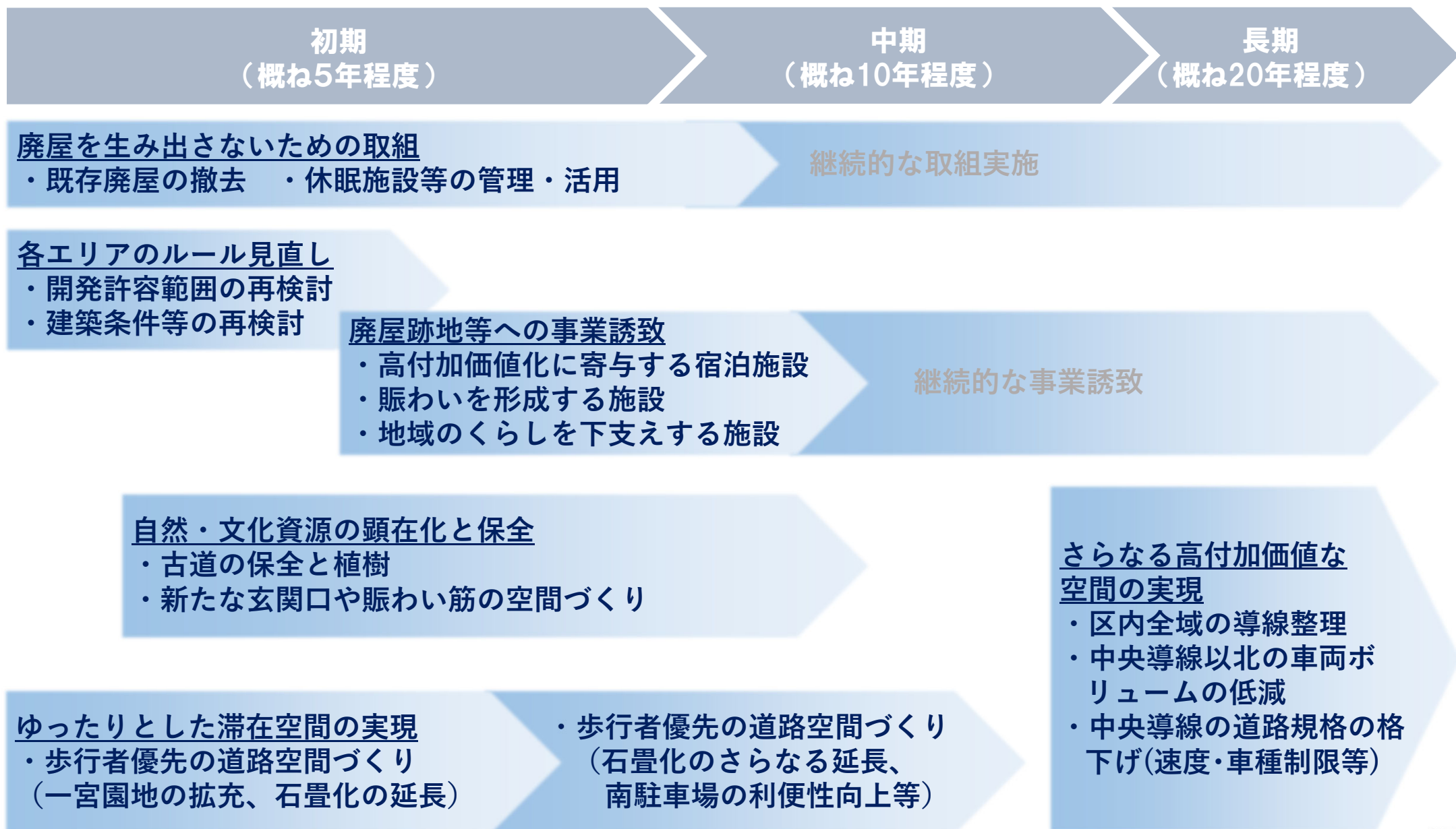
集団施設地区 + α を主に、エリア区分を設定

- ・ 湖・神社に近づくにつれ、高付加価値化に特化
- ・ 人口や利用の変化に合わせ、開発許容範囲を見直し



将来土地利用像（案）の実現ステップの全容

◆実現に向けた時期別取り組み事項



主な意見（地域WG）

◆全体ゾーニングの方向性に対する意見

項目	主な意見
土地利用の考え方について	・考え方は良いと思う。歩行者と車両の利用空間は分ける方が良い ・人にやさしく自然を活かした土地利用の考え方については基本的に賛成する ・イベントで人を呼ぶのではなく、自然を見て楽しんでいただくことが第一のため（事務局案で）問題ない
マスタープランの対象範囲について	・範囲は良い ・もっと広げた方が良いと思う。範囲は広い方が良い ・上地区（集団施設地区から東側）まで含めた方がよい
水辺の環境保全区域の考えについて	・ありだと思うが、現状の事業者と一緒に絵を描いた方がよい。現状の休屋の景色や湖岸は上質空間ではないので負担にならない程度で改善した方がよい ・湖上からの景観は重要なポイント、重視していただきたいが宿泊施設～湖畔の間をどうするかは、抑制しつつも事業者と話していくことも重要 ・基本はOKだが、共同で利用したりするコントロールされた利用も推進してみてもどうか
賑わい筋（参道）の考えについて	・歩行者中心の空間は良い ・ビクターセンターが（賑わい筋）入り口に当たるので、情報を仕入れてから湖を楽しんでほしい ・参道という表現は変えた方がよいが、賑わい筋という考えは良い ・賑わい筋に宿泊施設や飲食店等を集約するイメージかと思うが、新たな廃屋をうむ可能性があり、自然環境との調和もむずかしい印象を持つ
その他	・多目的広場や北駐車場の扱いは慎重に進めてほしい。先に南駐車場の拡張等を進めていってはどうか。イベント時の確保も併せて明確にした方がよい ・全体としての世界観をビジュアルで知りたい、ビジョンの明確化と共有があったら良い ・廃屋の悪循環は通年営業の難しさが主要因だと思うので、人が来ているグリーンシーズンではなく冬季をメインに価値を創出することが必要 ・「滞在型、高付加価値型観光」は誰が判断するのか、検討要素に入れてはどうか。当然、地域あつての事業だが観光のトレンドや今後の観光スタイル等、客観的に見て魅力的か気になる

主な意見（地域WG）

◆主な廃屋跡地（今後撤去予定の廃屋含む）の利用方針に対する意見

項目	主な意見
旧桂月亭の跡地	・ 芝やあずまや等があり、人が集える空間として使うのが良い ・ 自然の公園がよいが、熊の課題があり、緩衝地帯を広くとって欲しい ・ 森に還す、または神社に関する信仰を感じられる場所とするのが良い ・ 超高級な隠れ家的な一棟貸しホテルがあってもよい（自然と調和したもの）
十和田湖グランドホテル湖畔の跡地	・ 宿泊施設の誘致場所としては問題ない ・ 高付加価値を求める層が泊まりたくなる場所か疑問 ・ ゲストハウスやラウンジ、ショッピングエリアが良いと思う ・ 雨天時に休める大きい建物がほしい。「ぷらっと」を大きくし、中にアクティビティの案内所・観光案内所等の全ての案内所を置いてはどうか ・ 休屋地区でもとても良い景色が見られる場所。出来れば最高の宿泊施設を作ったら良い ・ 利用価値の高い場所のため宿泊施設とするには少しもったいない。観光客が滞在しやすい場がよい
十和田湖グランドホテル&十和田科学博物館跡地	・ 宿泊施設の誘致場所としては問題ない ・ 利用価値の高い場所のため宿泊施設とするには少しもったいない。観光客が滞在しやすい場がよい ・ 緑地としてはどうか
十和田観光ホテルの跡地	・ 緑地公園とし、休める場所がよい ・ 一の宮付近に案内所がほしい ・ 湖が見えるポイントなので、このままでよいと思う ・ 賑わい筋を「動」と考え、この場所と旧桂月亭の跡地は「静」と考えては ・ 湖の良さを一番感じられる場所、テーブル・ベンチを広げては
その他	・ 誘致は複数の業者が一つの施設で共存するなど柔軟な考えで行ってほしい（土産屋にガイドカウンターを置く、日中の食堂を夜間別業者がBARにする）建物ありきではない誘致が必要 ・ 地域のインフラ整備の体制が限界であり、事業者誘致の公募要件には地域協働（除雪・除草等）への協力を示してほしい

主な意見（地域WG）

◆具体的な空間活用の考え方に対する意見

項目	主な意見
新たな玄関口・古道や結界の再生	・ 新たな玄関は賛成で、駐車場の騒音等の規制も行ってほしい ・ 賛同、玄関口としては最適 ・ 玄関口として良いが、安全面を考えると遊覧船乗り場より先（北側）への進入路はない方が良い ・ 歴史を感じられる場所も必要、古道や結界の強調は霊山十和田の探求のために良い ・ 電線地中化もセットで進めてほしい ・ 古道を分断している車道はなくしても良いと思う
賑わい筋の空間デザイン	・ 賛同。良いと思う。 ・ 杉はあくまでも参道用の並木としてのみ植樹して、参道外は本来の原風景（桂平）にした方が良い。
南側駐車場の拠点性向上	・ 以前検討していた案が出てきたようで良い/消えた計画がなぜまた復活したのか不思議 ・ 南駐車場やガソリンスタンド側を休屋の入口とするなら駅前広場の充実を優先すべき ・ 南駐車場から十和田神社まで歩くのは特に高齢者は厳しいのでは/（移動手段として）グリーンスローモビリティを走らせると良い ・ 冬のアクティビティに適している天然森は北側に集中しており、南側駐車場を拠点にすると冬は歩くことが苦になる距離
現在の多目的広場・旧小学校の活用	・ イベントができる場所（余白）としてあった方が良い ・ 学校リノベもして欲しい ・ 湖が見えづらい場所への宿泊施設は施設誘致が難しいのでは。合宿場や運動部関連施設の誘致が適しているかも ・ 高付加価値化の目的と異なる大型事業の誘致はそもそもNGでは。それだと何でもありになってしまうと思う
南側(休平)の一角	・ 現状のようなゆったりした利用を継続するという考え方で問題ない ・ 長期滞在できる仕掛けが無いように感じるので、そのような打ち手をここで講じるのもありかも

主な意見（幹事会）

◆マスタープラン骨子に対する意見

項目	主な意見
「高付加価値化」の考え方について	・ サービス対価を上げることが「高付加価値化」に繋がると思うが、この地区において「高付加価値化」とはどういう意味で、それは誰に対する高付加価値化なのか。この点の明確化・共通認識が必要。奥入瀬エリアとの関わりなども考慮すると良いのでは。 ・ 既存の商売をされている方がいる中で、一部のエリアのみ高付加価値化されても、地域全体が高付加価値化されるとは考えにくい。地域全体で高付加価値化されるようなコンセプトが必要 ・ この地域にしかないものを提供すること。それが、ここにしかない価値＝高付加価値、だと思う。
エリア区分について	・ 高付加価値化を目指すとしているエリアには、ビジネスをしている方がいるものの、お住まいの方は少ない。このエリアの外側にお住まいの方が多いと思うので、エリア内の方と、地域のコミュニティとの繋がり方に言及があった方が良いと思う。
土地利用方針・空間デザインについて	・ 現状は北駐車場側に食堂等があるため、南駐車場から歩いてもらうのは現実的ではないように思う。 ・ 土地利用方針（案）の表現に少し違和感。「穏やかな日常」は、自然の中での暮らしには様々な刺激や活気もある。また、「自然がもてなす」は、もてなすのは自然ではなくやはり人ではないか。 ・ 「湖面から見たときに人工物の建物が見えないようにする」という方針と、「湖畔から湖を見えるようにする」という方針もあり、矛盾するようにも感じる。 ・ 「歩きたくなる空間づくり」に努めれば、人がやってくると思う。 ・ 既存のお住まいの方の生業・住み方があるので、それを大事にしながら、商業のあり方を考えた方が良いと思う。 ・ 地元の人には、落ち葉掃除や除雪などの維持管理コストがかかっている。地元で生活している人の意見をしっかり取り入れていただきたい。
その他	・ このマスタープランによって地域の交通等含めたインフラまで改善されていくことを期待。 ・ インタープリテーション計画は個別施策というより、もう少し上位の考え方として位置づけるべきではないか。 ・ 昔の地元の人たちがこの地区に来ていた時代を思い起こせるような視点も忘れないでほしい。 ・ 様々な意見はあると思うが、今回の事務局案を背骨としてしっかり進めてほしい。